

女の会通信

No. 22

811031

長崎 行動を起こしたい女の会 事務局 七一四三四八
通信編集局 長崎市中国町四十七 四四一八四二

私が生きるといふこと

M.M

今回筆を執るにあたってまるで今までとは

違う感がある。というのには私は私の過去にこ

ろが、今回自分の過去が全く関係ない過ぎ去

りた事として、その事による痛みをあまり伴

なわずに書ける。私にとっては何と云いますか？「汚い手でさわ

らちやダメノ」とあなたには云うでしょうか。あるいは「そ

んなどこぞわっちやダメノ」というでしょうか。たぶん多

くの人はそう言うでしょう。もちろん、女の会のお母さ

んたちも。より厳密に書くことにします。私はここで、お

母さんたちに尋ねたいのです。もし娘が「そしたらお母さ

ん手をきれいに洗ってからぬいと返事をしたらあなたはど

う答えますか。「そうしない、手が清潔だったらさわっ

てもいいのよ」と言いますか。あるいは娘が「足が痛い時

は足をなでろし、ほったかかかかったらかいてもいいの

に、どうしてここはさわっっちゃいけないの？」と尋ねたら

あなたはなんと答えるでしょうか。いろんな答えをした人

がいると思います。だけど多分、多くの人が理由もへ

つたくれもない、とにかくそこをさわってもらいたくない

と思ったのではないかと私は考えます。もちろん私の偏

見方の上ですが。なぜそこだけはさわってほしくない

のかをより多くの人に考えてほしいのです。日常の中のさ

細な会話の一行復、もちろんそれだけの事です。ところが

その一言の中に実に大きな意味が含まれていると私は考え

ます。娘はちゃんとした答えをもらうことはできません。か

もそこをさわるのがとにかくいけない事なのだという事を

親の態度で暗黙のうちに悟ります。これは全く無言のうち

にテレビシーよろしく行なわれるのです。そしてこのこと

の意味は非常に重大なのです。いいえ書き直しましょう。

少くとも私にとっては重大なこととなったのです。

私は幾つのか正確には思い出せませんが初潮を見る一年余り前から自慰行為をしていました。自慰行為自身は小学校のなかばか低学年の頃近所の同じ小学生のお姉さんにお教わりました。そしてそれがいけない事だと悟ってから、そしてやめられなければなる程、悪魔のようにその人を呪っていたように思います。私にとっては悪魔の使いのように思い、不潔に思いました。しかし私はその人を憎むよりも、自慰をしているのを知られないようにするのに必死でした。そして呪文のように私はこの人達とは違う、自慰をしている女だ、やめられない女だと思ってきました。何のことはない、自分の顔が醜いと思ひこんで劣等感に陥っていたのもこの自慰のせいでした。もちろんこれもごく最近わかったことです。ほんとにこんな風に書いていると我ながらおかしくて笑いたい気持ちですが、思いこみというのはほんとに恐ろしいものです。世間や周りがどう私に對処したかというより以前に、すでに自分で自分をこの上なく汚れた、けがらわしい人間(女)として、自分から赤礼をつけてきたのです。教えてくれた相手を憎むなら棄てたが、私にとって憎むべきは私自身でした。誰にも、いまだか

って話したこともないから見られたこともない。私しか知らない事だったので、何も自分から赤礼をつけることはなかったのですが、そつはできませんでした。キラキラ輝く独身の男たちを遠く見ながら、私はそれでも私に合う男を探しました。それこそ必死で。

ちよつと前、勤め帰りのバスの座席で何気なく窓外のバス停に群れている人々を見て、ハタと気がついたのです。あの女もこの女もきれいな格好をしてそんなことなかったような顔してるけど夜になるとダンナと寝るんだなということ。それも彼女が寝たくて寝るんだなということ。だっていやなら結婚なんてとてできないけど、やっぱり結婚するじゃないか……と。

山が見たいと思っているのに窓を閉めたままで見えない見えないと嘆いている女、水が飲みたいのに砂漠を探している女、バカな女、この上なく愚かな私、そして愛しい愛しい、この、ここにいる私という、たった一人の女、この世でたった一人しかいない愛しい私よ、長い自己否定の時間が、やっと私から遠のいてゆく、負の自分から正の自分へ、輝かしい明日へと、もちろんそう願いたいもんだ、いや

ない。このたつた一枚の壁を。今はまだ。彼女が長崎のあるミッシヨン系の女子高生がぞろぞろ学校から出てくるの
に生念って、私にはなんのけがれもありませんという顔を
しているのを見て殺してもいいと思つたと述べたが、なぜ
そのけがれかといえは、彼女たち、清純だけがけがれなのを
売り物にしてゐる彼女たちこそ、まず最初に佳身の女たち
をまず最初に殺してきた女たちだからである。ポーランド
の映画「地下水道」で上官をたまして一緒に版出し、上官
がそれを知って銃で一発で殺して自分はまた苦しい死と隣
りあわせの任務につくためにもどるといふ最後の場面があ
つたが、あれと全く同じだと思ふ。彼女たちは性欲のある
女を殺さずしては清らかな顔で生きられないのだというこ
とを。なぜなら彼女の中に性欲があることを彼女は知って
いるからである。どんな清純無垢も汚すよきもこの世では
結局裏と裏の関係でしかないと思ふ。人間はどう転んでも
人間でしかない。

最後に私は自慰をしてきましたと言ひたつたのに「性
的に非常に早熟だった」としか言えなかつた私をききよき言
かせてくれた勇氣ある先輩、田中美津さんと通信の16の「
私にとっての性の問題」の執筆者に心より感謝し、そして
自慰だけではなくそれ以外の諸々のことにより自分を賤め

てきたたろの愛しい女たちへの思いを込めてペンを置きます。

実行委員の一人として大赤子になるのではと心配してい
ましたが、一応、赤字ではなさそうなので一安心していま
す。会場の雰囲気と歌の内容とマッチしてモリ上りもあり
コンサートは成功だったと思つています。

男性にも何枚か買ってもらいましたが彼等の感想も気
になるところです。自分はあの歌に出てくる男とは違
うなという気持ちからでしょうが、平気でうけとめていた人
が多かったです。 実行委員 A・T

へ小林万里子コンサート拾いあつめ ♪ ♪ ♪

※おもしろかった。はっきりりうからおもしろい。こしか
ら先どんなふうになるのか楽しみ。歌詩がいい。男にきか
せたらどういり反応を木すのか興味がある。「男というの
に淋しいよ」といふ歌は、ほんとうにびっくりしました。

(野母崎、30才女)

※またやれ。場所をひろりとこころでしてほしかった。それ
むじかんをなかく。聞きたりなかつた。

(K H)

※男と女は違う。とニが違うかといえは男は差別をしてい
る。
(家野町、男)

★生理で重たい体をひきずって行きました。どうしても聞きたいコンサートだったから。彼女の歌は体の底まで軽くしてくれたようだ。考えてみれば、わかっただけでいい。という思いが相手の男と話をする時にいつも優先していた。小林マリ子さんは女の、私のつぶやきや叫びをそのままに歌ってくれた。コミカルに。強れつに。

私は、とうとう来れなかった職場の子に聞かせられなかったのがほんとうに残念だった。(澤城・31才女)

★女の本心をハッキリ出されて目ごうのもやもやがスカッとした。でも会場を二歩出ると、何だか自分の現実を引き戻されてわびしくなった。今日も連れ合いは仕事だというので、子供をおばあちゃんに預けて出かけてきた。そういうことでは何にもならないなあと思う。三日ほど口をきかなかった。私もはやく活路を見出すならや。

(三原野・31才女)

★わかる所もい所もあったが、彼女がこのまま歌っていいとは思えない。キッとやわらかい方向になっていくと思ふ。彼女自身には魅力を感じ、彼女の今後が楽しみである。

(34才女)

★到着がトラブルがあって遅れたので、本人も場にすぐに慣れなかったのが残念。唄をきいていて、はやしたてるというよりは涙が出てしまった。初めて来た人に真意が伝わったかなと心配。最初レコードで聞いた時も、コンサート会場でも好きだったのは「せんたくズギ」。女に対するやさしさにあふれた唄だと思う。

(桜馬場野・32才女)

★おもしろかった。評判どおりでよかった。女同士の関係が、お互いに熱いメッセージを送りたい関係であってほしいのに、女の敵は女であるというような現実が一方では確かにあるということも、「ひろこさんの歌」「まりさんの歌」をきいて心に残りました。いい男、いい女に出会いたい。(大村・35才女)

★きつかった。「朝おきたら」「男といるのに淋しいよ」「洗たくズギ」はよかった。でも若い女の人が聞いたら夢がつかせられそうでかわいそうだと思う。男にはもつとわかっただけなら勝手に話さないで、男は愛おしいのではないうか。女はこう感じているというだけでは男から反応されるだけだと思う。

(32才女)

母とてもよかった。とてもよかったというのは、今まで歌にはコンプレックスがあつて、私にとっていい歌だと心をゆるせるような歌がなかったけど、小林さんの歌を聴いて、ヤッとかうたしにめぐりあえたという気持ちだったので。歌って、こんなものだったんだなあーと。どんな講演も本より、深く、呼びかけられ、それに感応する私がありました。歌が私は好きになりました。(深堀・30才女)

☆はじめて聞いた歌だった。私にはあまり向かなかったと心づ。経験不足なのかもあ。

☆日頃、自分一人で考えてきたことが、次々と歌にされたという感じで、本当にスツキリしました。楽しかった。大満足です。(諫早・47才女)

☆彼女の歌は、自分を裏切つてゆく男に恨みをぶちまける歌であるけど、それはそれで自分のやりたい事をやりきり、女の主体を確立するということでは素晴らしいと思う。ただあまりに男に対しての怒りが強いので感じるのかもしれないが、そこに思いやり、やさしさに欠け、人間不在というものが根底に流れているとしたら、ただ空しいだけであらう。(若竹町・26才男)

10月21日

「学級通信トシネル」事件公開審理開かる

才九回審理は、興善町、自治会館で午後一時半より始まりました。傍聴席は丸山先生の処分に関心する父母を中心にして20名程ではほーはい。学級通信をはじめとする文書を教育のためにはなく管理のために検閲する体制として、校長の位置はしっかり教育委員会に握られていることがさらけ出されました。校長の決意を受けずに出されている文書などいくらでもあるのに、何故丸山先生だけが処分を受けただのか？ 会場はイライラしどろどろでした。(報告・0)

「女の会総会」11月下旬予定
 事務局移送、その他今後の活動について
 多数御参加ください！
 11月14日ー上野さんの話をきく集いー
 午後6時半
 (K宅)

「通信」読者の声

☐

△時津町・ K ∇

専業主婦九身。夫は身内の商店に勤めている。嫁ぎ手の男が仕事に意欲をもたないのは、妻たる私が悪いからだと、夫の親族から言われているうち、当の亭主もすっかりその氣になつて、生活上のくいちがいがあるたびに、姑に御報告。だつてにおんぶの夫に愛想がつかさう。こつなつたのは経済的基盤を夫ひとりにおいたことにも一因はありさう。専業主婦はワリに合わない。

☐

△大瀬戸・ M ∇

僻地で話し込める友人も見つからないまま生活しています。自分としては職業を持っていないことに負い目を感じていますが、労働観と、その反論に用してひとこと。主婦と有職者との間には対立があるのが当然で、そのところをどうやって女同志がつかつていくのか、もつとはつきりさせていかないと、表面的な議論で終るのではないかと思ひます。ひとつの問題提起に対して、更に様々の意見を通信に載せてほしい。

☐

△大村市・ U ∇

大村へ移つてきておよそ一年になります。職場と家の往復、それにギターやスポーツという生活で、ついつい毎日が無調子なつてしまいます。何もしてないという気がして少しあせる気持ちもあり、業場を閉くとか、早く何かをはじめたいな、と思つています。暇な方、忙しい方、ぜひ大村へおいでください。

☐

△三原町・ Y ∇

今、体調が思わしくない。それでいささか文世的になるといつわけもあるまいが、私はしきりに結婚といふものに対する「憂うつ」の形容詞を感じずにはいられない。男に会ひ、女に暮したいと希つた時の、あの情熱(エロヌ?)は、一体どこへ置き忘れたか。この男と何かを産み出すことは、しよせん無いものおだりに過ぎないか、おろいが見えずぎて、丁度養止と切り結ぶ、之面映ゆいさうな関係は、まさに「憂うつ」。

結婚によって女の長途が深くなつてゆくという、矛盾に

満ちた。憂うつだ。それでも相手に誠意の見えろうち
は、結婚を御破算にするにしのびないへと、モコとした女
の部分が叫ぶ。別れるのはそう難しいことではない。子
や、親や、その他の諸々までも引くくるやだ。ドロドロし
た相克の繰り返しに比べたら。二人の関係の検証が、取り
も直さず、自身の生々様を直す。その苦痛に比べたら。
そこを乗り越えて、燃える女、味な女になろうよと、肩を叩
いてみるもう一人の私。



△野女崎町・N V

目下、仕事にはリキッています。保守的な土地柄ですが、
教員という仕事、頑張ればそれだけの反応かかってくる
ので、子供二人をかかえながら奮闘しています。



△佐世保市・B V

毎月の通信、楽しく読ませていただいております。
でも何となく物足りない。女の権利とか、女をひとりの前
人間として扱うべきだという主張がよくわかるが、実際に
生活している中で、もっと具体的な、いろんな問題がある
と思う。(子供の問題や、核の問題等)。通信は「せし

片寄りすぎではないでしょうか。

また、働いているから自立できるとか、権利主張できる
とも思わない。主婦のままで、一人の人間でありたい。
核いでないからといって遠慮すまいと思う。